

## 青少協☆タイムZU

～大人が変われば、子どもも変わる～



15号

「鶴城地区 青少協☆タイムZU」第15号の発行にあたって、編集長を務めた長谷川慶一郎さん（88歳）に、この20年間の活動について話を伺った。

長谷川 慶一郎さん

元鶴城地区青少年育成協議会会長

長谷川 慶一郎さん



10号

「鶴城地区 青少協☆タイムZU」第10号の発行にあたって、編集長を務めた長谷川慶一郎さん（88歳）に、この20年間の活動について話を伺った。

長谷川 慶一郎さん

元鶴城地区青少年育成協議会会長

長谷川 慶一郎さん



5号

「鶴城地区 青少協☆タイムZU」第5号の発行にあたって、編集長を務めた長谷川慶一郎さん（88歳）に、この20年間の活動について話を伺った。

長谷川 慶一郎さん

元鶴城地区青少年育成協議会会長

長谷川 慶一郎さん

私が町内会の役員だった十年ほど前までは、年に一回町内祭りを開催していた。いも煮をしたり、川魚を焼いて食べたり、小さな輪ではあったが盆踊りを楽しんだりしていた。このイベントは、町内の人々の結びつきを深めるのに大変有効であったが、いつの間にか町内祭りは中止となってしまった。

各町内の子供会も次々と消えて行き、PTAに加入しない親も出てきていくらしい。結果、親も子供も社会的に孤独なのである。

こんな時代に鶴城地区の青少年育成協議会は、何をすれば青少年健全育成が出来るだろうか。会議をしたり広報誌を発行するだけでは、十分な効果は期待できない。協議を深め、大人と子供たちの結びつきが深まるイベント等を企画して頂きたいなど思っている。



### 大人と子供の結びつきを深める

元鶴城地区青少年育成協議会会長  
長谷川 慶一郎（八十八歳）

鶴城地区青少協タイムZUは、このたび第20回目の記念号を発行するに至りました。そこで、元鶴城地区青少年育成推進協議会会長の長谷川慶一郎さんより、子育ての昔と今、そして未来に向けてのメッセージを頂戴しました。



「あいさつ運動」(二中)



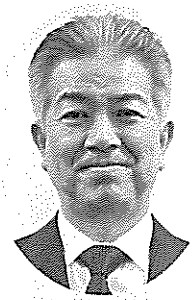
「あいさつ運動」(鶴城小)



毎朝、学区内を歩いていると、いろいろな気付きがあります。鶴城地区は、鶴ヶ城や博物館、たくさんの方の公共施設などがあるため、木々や草花の成長、色、香りから季節の移り変わりが感じられます。二つ目は、散歩や掃除をしている人が声をかけてくださったり、車の中から懐かしい顔を見せて手を振ってくださったりと、たくさんの方の応援に囲まれていると感じます。そして、何よりも子ども達とのあいさつで、元気にあいさつしてくる子どもや、ニコッと微笑む子、立ち止まって礼を返す子どももおり、その日の子どもの心のエネルギーを感じています。

そんな中、信号機のない横断歩道を渡り終えると、停止してくれた運転手に向かっておじぎをする子ども達があります。きつと多くの方がこのような姿を目にしたことはあると思います。逆に、横断歩道で待っていても、車が平気で目の前を通り過ぎる経験の方が多いかもしれません。この一時停止率は、都道府県ごとに大きく異なるようで、多くの県では5割程度ですが、長野県では全国でも珍しく8割を超える運転手が一時停車するとか。そこには、子どもの頃から、渡り終えたら「おじぎする」という教育が当たり前のように行われてきたという文化的習慣の表れだそうです。法律上、停まるのが当然で礼をするのはおかしいかもしれませんが、この些細な所作が運転手と歩行者双方を尊重する関係を築いているようにも感じます。つまり、地域全体で慣習や教育、世代を超えた伝承を通じて、「相手を思いやる姿勢」を根付かせているのです。

会津には、「あいづっこ宣言」に代表されるように、大切にすべき教え、慣習がたくさんあります。これが鶴城地区でも世代を超えた伝承となったならばすばらしいことだと思います。私も、毎日の「あいさつ」「おじぎ」から取り組んでいきたい。そんな気付きを子どもたちの姿から得ることができました。



## 世代を超えた伝承となるように

会津若松市立鶴城小学校  
校長 鈴木 正和

## 第38回少年の主張会津若松市大会

### 〈小学生の部〉発表作品



### 今、ぼくにできること

会津若松市立鶴城小学校 6年生

中川 稜太さん

みなさんの将来の夢は何ですか。将来の自分の姿をイメージしていますか。ぼくは、将来、自動車の内・外装をデザインしたり、組み立てたりする仕事をしたいと思っています。そう思うようになったある出来事を紹介します。

まず、自動車をデザインする仕事に興味を持つたきっかけは、五年の社会科の学習です。

自動車づくりの単元で、手足が不自由な人も簡単に乗り降りができ、自動運転ができる自動車があることを知りました。「すごい技術だな。誰もが使いやすい、快適で、オーナーの方に喜ばれるような車を、ぼくもデザインしてみたいな。」と思いました。

ぼくは、小さいころからものをつくることに興味がありました。ぼくの家はそば屋をしています。が、お店の一角で、ぼくがロケットの工作をしていると、「すごいねえ。」と声をかけてくださったお客様がいました。その方は大学の先生で、宇宙の惑星や宇宙工学を専門に研究しているとおっしゃっていました。その先生は、ぼくに「はやぶさ」という映画を勧めてくださいました。「はやぶさ」とは、小惑星を探索する人工衛星のことです。数々のトラブルを乗り越え、七年間も小惑星を調査しただけでもすごいことですが、このはやぶさには、

令和6年8月8日(木)に会津若松市文化センターにおいて、第38回少年の主張会津若松市大会を開催されました。市内小中学校の代表の31名の皆さんが、日頃感じていることや多くの人に聞いてもらいたいこ

誰もいまだに知らない宇宙の起源を調べたいという、多くの研究者の思いがこめられていたことを知りました。ぼくは、そんなすごい物をつくりだす人や仕事にあこがれをもつようになりました。

もう一つ、ぼくに影響を与えたのは父の仕事です。今はそばを打つ仕事をしていますが、会津にくる前は、ファッションの世界でデザイナーをしていました。今でも、毎日の連絡帳のサインの代わりに、新幹線や自動車のイラストを描くくらいデザイナーにこだわりのあります。ぼくは、その仕事について改めてたずねてみました。すると父は、「流行にあったデザインを考えるだけでなく素材選びにこだわり、着る人が快適で動きやすいように、何度も何度も検討を重ねて作り上げていくんだ。」

と話してくれました。現在の父は、デザインの仕事をしながらも、そばづくりが中心です。父は、そばづくりについてもこんなことも話してくれました。

「デザインもそばづくりも同じ。季節や毎日変化する天候ごとに水分量や力加減を微調整し、そばを完成させていく。いつも来店し、食べてくださるお客様の笑顔を願い、想像しながらそばをつくっているんだ。」

と、夢や希望、社会への提言などを堂々と発表しました。

ここでは、鶴城小学校を代表して発表した児童の作品を紹介します。

ぼくは、よく週末に父の作業場に行き、父がそばをつくる姿をじっと見ていました。真剣なまなざしで取り組む姿に、そんな思いがこめられていたんだと改めて思いました。父のものづくりに対する強い思いやこだわりは、もしかするとぼくも受けついでいるのかもしれないなと感じました。宇宙の研究をしながら様々な技術開発を進めている大学の先生。デザインやそばづくりの仕事に黙々と取り組んでいる父。二人の姿は、ぼくのあこがれでもあり、尊敬する姿です。まだまだぼくは未熟です。しかし、将来のなりたい自分に近づくために、学校の授業はもちろん、様々なジャンルの本を読み、必要な知識を身につけたいと思います。また、ものをつくる仕事は相手のニーズに合わせる必要があるのです。相手の立場や思いに共感できる人になりたいです。

今ぼくは、学校の前を通る人が気持ちよく通行できるように、ごみ拾いや草むしりをがんばっています。通る人に、「ありがとう。」

と言われると、自分の心もすっきりとします。このように、今、自分の身の回りから出来ることを意識して行っていくことが「自信」になり、夢に向かう階段を一步步づつ上がっていくことにもつながると思います。ぼくは、これからも将来の自分のために、今できることを積み重ねていきたいです。

令和6年度

# 青少年健全育成標語

入選作品を発表します。  
鶴城小学校5年生のみなさん、ありがとうございます。

最優秀賞



ならぬこと 注意できる子  
鶴城つ子  
金子 萌衣

優秀賞



あいさつが 自然と聞こえる  
家族から  
二瓶 莉子

佳作



ごめんねと 自分から言う君  
かつこ良い  
山本 莉



「おはよう」は 心がつながる  
まほうだね  
泉 理桜



ありがたう 笑顔をくれる  
君の顔  
伊藤 駿



こんにちは 言葉でつなぐ  
地いきの輪  
佐藤 呂奈



「ありがとう」 みんな笑顔に  
する言葉  
渡部 陽葵



悪口は SNSでも ダメぜつ  
たい  
梅宮 勇矢

## 「中学一年生から 全国中学生スキー大会に出場！」

若松一中 遠藤輪人さん

種目出られたこと

遠藤輪人さんは、スキーをする環境に恵まれている猪苗代や松枝岐の中学校の上級生を圧倒し、会津若松市から福島県の代表として全国中学生スキー大会に出場しました。

Q6. 来シーズンに向けての抱負を！  
A. まだ今シーズンが終わっていないので、3月末のジュニアオリンピックで表彰状獲ってきます！

ここでは、輪人さんのスキーに対する想いや将来に向けての抱負について話を聞きました。

Q7. 将来、目指していることは？  
A. 一般的な平凡な生活です

Q1. スキーを始めたきっかけは？  
A. 気づいたら滑っていた

一つ一つの質問にテキパキと答える輪人さん、寒い冬は暖かい家の中で過ごしがちの人が多い中、雪上で戦う姿は頼もしい限りです。今後の活躍がますます楽しみです。皆さんも、ぜひ応援よろしく願っています！

Q2. 夏場の過ごし方は？  
A. 陸上部やっています

Q3. あこがれのアスリートや尊敬している人は？  
A. 父ですが

Q4. スキーの他に得意なことは？  
A. 積んだ雪山でスキー場づくり

Q5. 今までで一番うれしかったことは？  
A. 中学校一年生の時、全国中学生スキー大会に2



## 令和6年度 事業報告

5・28	鶴城地区青少年協議会	鶴城コミセン
7・2	朝のあいさつ運動	鶴城小
7・4	朝のあいさつ運動	若二中
7・11	児童安全確保連絡協議会	鶴城小
7・15	健全育成標語のぼり旗設置	鶴城小
8・8	少年の主張会津若松市大会	文化センター
12・11	朝のあいさつ運動	若二中
12・12	朝のあいさつ運動	鶴城小
12・20	危険箇所環境調査	学区内
12・21	健全育成標語選考会	鶴城小
12・22	広報部編集会議	鶴城小
12・23	健全育成標語表彰式	鶴城小
12・25	健全育成標語看板設置	鶴城小
3・1	青少年協タイムズ発刊	学区内

## 令和6年度 鶴城地区青少年育成協議会 役員

会長	渡部 和明
副会長	二瓶 正則
副会長	齊藤 敏浩
推進部会長	遠藤 綾
環境部長	白井 みゆき
広報部会長	村澤 智
庶務	木野 善弥
庶務	五十嵐 太陽
計務	篠崎 理恵
事務	森崎 武久
監事	丸茂 直樹

## 編集後記

昨シーズンの冬は大雪となりました。地域における自助・共助・公助は、今後ますます重要になってきます。来シーズンの冬は、体力づくりを兼ねて自宅前の雪片しを行い、子ども達が安心して通学できるようにしましょう。  
村澤 智